

# 高松塚古墳シンポジウム

石室解体レポート

入場無料 申込先着1000名 ※定員に達し次第  
受付を締め切ります。



平成20年1月26日(土) 13:30~17:00頃 (受付・開場:12:30~)

橿原文化会館大ホール

奈良県橿原市北八木町3丁目65-5

■近鉄大和八木駅・徒歩3分

■JR畝傍駅・徒歩10分

会場には駐車場がありませんので、お車でのご来場はご遠慮ください

主催 文化庁、国立文化財機構奈良文化財研究所、国立文化財機構東京文化財研究所、奈良県教育委員会、明日香村  
後援 関西元氣文化圏推進協議会、朝日新聞社、NHK奈良放送局、産経新聞社、時事通信社、中日新聞、奈良新聞社  
日本経済新聞社、毎日新聞大阪本社、読売新聞大阪本社

文化庁

検索

**高**松塚古墳の石室解体作業が平成19年に行われました。石室の石材ごと壁画を取り出すという、我が国の文化財保存の歴史の中でも前例のないもので、作業は大変困難を伴いましたが、安全かつ着実に進められ、壁画を損傷することなく、石材を仮設修理施設へ無事に搬入することができました。

**こ**の事業の成功は、考古学、保存科学、生物科学など様々な専門家の英知と、作業に当たった技術者の工夫と努力、そして、それらの連携によって達成されたものです。

**本**シンポジウムでは、発掘調査、解体作業、カビ等の生物被害対応、修理の状況など、一連の作業報告をそれぞれの担当者から行うとともに、この経験を生かした今後の文化財保存の在り方を討議します。

## 高松塚古墳とは

7世紀末から8世紀初めに造られ、石室内部に星宿図、日月像、四神図、人物群像（女子群像、男子群像）が描かれた奈良県明日香村にある壁画古墳です。

昭和47年に古墳内の石室に壁画が描かれていることが分かり、極彩色の貴重な壁画として昭和49年に国宝に指定されました。このような漆喰（しっくい）の上に多数の色彩で四神図等が描かれている古墳壁画は、国内では高松塚古墳壁画とキトラ古墳壁画の2つが発見されています。

## 解体までの経緯

高松塚古墳壁画については、点検・保存・修理のための施設を設置して、現地で保存対策を講じてきました。しかし、石室内は、一時安定期はあったものの度重なるカビの被害が生じて、漆喰などの劣化が進みました。

さらに、平成16年に西壁の白虎の薄れなど壁画の劣化が指摘され、従来の保存方針が改めて問われることとなりました。これを受け、保存科学、考古学、美術史学など多くの分野の専門家により、保存対策の検討が進められました。

その結果、石室内でカビ・ムシなどによる食物連鎖を呈する状況になっていることが判明し、それまでの現地で保存するという方針を維持することは困難という結論に至り、複数の保存方策の中から、石室ごと壁画を取り出して解体修理を行う方策が採られました。

## プログラム

主催者代表挨拶（13:30～）  
高塩 至（文化庁次長）

**第1部【石室解体レポート】**（13:35～15:40）  
■「国宝高松塚古墳壁画2006」（ビデオ上映）

■「高松塚古墳の石室解体に至るまで」  
山崎 秀保（文化庁文化財部古墳壁画室長）

■「石室解体事業に伴う発掘調査」  
松村 恵司（奈良文化財研究所都城発掘調査部考古第一研究室長）

■「壁画保存修理のための石室解体」  
肥塚 隆保（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長）

■「古墳現地から修理施設への石材の搬送」  
高妻 洋成（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室主任研究員）

■「生物被害への対応」  
三浦 定俊（東京文化財研究所副所長）

■「高松塚古墳壁画の修理」  
川野邊 渉（東京文化財研究所保存修復科学センター副センター長）

■「高松塚古墳墳丘の仮整備」  
内藤 敏也（文化庁文化財部記念物課長）

**第2部【パネルディスカッション】**（16:00～17:00）  
「文化財保存の更なる飛躍に向けて」

■コーディネーター  
田辺 征夫

■パネリスト  
河上 邦彦 川野邊 渉 肥塚 隆保 左野 勝司  
松村 恵司 三浦 定俊 毛利 和雄



**田辺 征夫**（たなべ いくお）  
奈良文化財研究所長  
高松塚の現地統括責任者として解体作業を支えた。



**高妻 洋成**（こうづま ようせい）  
奈良文化財研究所  
解体班の一員として、輸送による振動を極限まで抑え、安全に搬送した。



**松村 恵司**（まつむら けいじ）  
奈良文化財研究所  
発掘班の班長。発掘調査の指揮をとり、古墳や石室の築造方法を明らかにした。



**河上 邦彦**（かわかみ くにひこ）  
神戸山手大学人文学部教授  
高松塚の検討会委員。古代の飛鳥を研究する考古学者。



**肥塚 隆保**（こへづか たかやす）  
奈良文化財研究所  
解体班の班長。飛鳥建設をはじめとする解体班の作業関係者と、見事な連携プレーにより、困難な作業を完遂させた。



**三浦 定俊**（みうら さだとし）  
東京文化財研究所副所長  
東京文化財研究所副所長  
生物班の研究者達とともにカビ等生物被害を抑制した。



**川野邊 渉**（かわのべ わたる）  
東京文化財研究所  
養生・修理班の班長。壁画を傷つけないように処置を行い、今後の壁画修理の中心。



**左野 勝司**（さの かつじ）  
飛鳥建設株式会社代表取締役社長  
石工。石室解体の作業責任者。前例のない解体事業を成功裡に導いた。



**毛利 和雄**（もうり かずお）  
NHK解説委員  
マスメディアの立場から高松塚を見守り続けるジャーナリスト。

### ■申込方法

参加希望者は1名様につき1枚の往復ハガキに、住所・氏名・フリガナ・電話番号・「高松塚古墳シンポジウム参加申込」と明記のうえ、平成20年1月17日(木)【消印有効】までにお申し込みください。

※シンポジウムの申し込みに関する個人情報については、その確認以外には使用いたしません。

### ■申込み先

〒630-8577 奈良市二条町2-9-1  
奈良文化財研究所 シンポジウム受付係

### ■問合せ先

お申し込みについて 奈良文化財研究所 ☎0742-30-6752・6753・6754  
シンポジウムの内容について 文化庁古墳壁画室 ☎03-6734-2887

## 申込み往復はがき おもて(外側)

<p>630-8577</p> <p>奈良文化財研究所 シンポジウム受付係</p> <p>(往信 おもて)</p>	<p>奈良市二条町二九一</p> <p>何も書かないでください</p> <p>(返信 うら)</p>
---	--

## うら(内側)

<p>あなたの郵便番号</p> <p>あなたの住所 あなたの名前</p> <p>(返信 おもて)</p>	<p>高松塚古墳 シンポジウム参加希望</p> <p>住所 &lt;あなたの住所&gt;</p> <p>フリガナ &lt;あなたのお名前&gt;</p> <p>氏名 &lt;あなたのお名前&gt;</p> <p>電話番号 &lt;あなたの電話番号&gt;</p> <p>(往信 うら)</p>
--	--

返信用宛名に、申込者の住所・氏名を忘れずに書いてください

## 橿原文化会館

<http://www4.kcn.ne.jp/~kashibun/>

